全国公立学校教頭会　第41回中央研修大会　シンポジウム資料

「社会に開かれた教育課程と コミュニティ・スクール」について

教育活動の「共有化」と「見える化」

「知っている」から「やってみる」

大分大学COC+推進機構
統括コーディネーター　梶原　敏明
文部科学省　CSマイスター

資料の（目次）

- 「社会に開かれた教育課程」背景・経緯
- 地域や社会そして世界を視野に入れた教育課程
- 「社会に開く」とは、教育課程を介して学校教育の目標を社会と共有し、子供たちが社会や世界とのつながりを育む教育活動の展開
- 開くためのツールとしてのコミュニティ・スクール

国の動向

「社会に開かれた教育課程」の背景・経緯

（参考）学習指導要領改訂の背景

参考資料1

出典：文科省

人工知能が進化して、
人間が活躍できる職業は
なくなるのではないか。

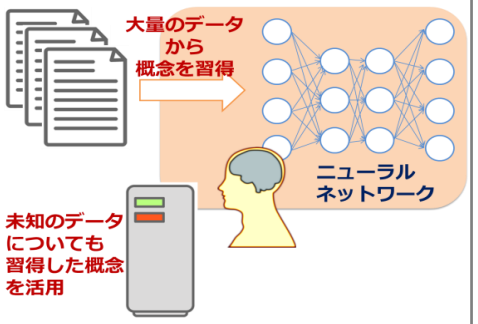
今学校で教えていることは、
時代が変化したら
通用しなくなるのではないか。

子供たちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、
未来の創り手となるために必要な知識や力を
確実に備えることのできる学校教育を実現します。

人工知能(AI)の進化は、習得・活用・探究を重視した我が国の学校教育における学習過程の強みを実証しています。

AIは、人間が物事を深く理解する過程（個々の知識を関連づけて概念を理解していく学習過程）を模した「ディープ･ラーニング」を取り入れ、飛躍的に進化。

⇒習得・活用・探究を通じた過程の中で、新たな知識を、自分が持つ経験やその他の様々な知識と関連づけながら深く理解し、どのような時代でも通用する、生きて働く知識として身に付けていく、という学習過程の強みが実証。



新しい教育課程では、**学校教育のよさをさらに進化**させていきます。

- これからの時代に求められる知識や力とは何かを明確にし、教育目標に盛り込みます。これにより、子供が学びの意義や成果を自覚して次の学びにつなげたり、学校と地域・家庭とが教育目標を共有して「カリキュラム・マネジメント」を行ったりしやすくなります。
- 生きて働く知識や力を育む質の高い学習過程を実現するため、各教科における学びの特質を明確にするとともに、授業改善の視点（「アクティブ・ラーニングの視点」）を明確にします。これにより、教科の特質に応じた深い学びと、我が国の強みである「授業研究」を通じたさらなる授業改善を実現します。

学習指導要領の動向.pdf (保護) - Adobe Acrobat Reader DC
ファイル 編集 表示(V) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
ホーム ツール 学習指導要領の... ×
サインイン

育成すべき資質・能力の三つの柱（案）

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

知・徳・体

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

出典：文科省

「次世代の学校・地域」創生プラン（馳プラン）

～中教審３答申の実現に向けて～

参考資料3

答申③←教育再生実行会議第７次提言

教員改革（⇒資質向上）

養成・採用・研修を通じた不断の資質向上

ベテラン段階
- 管理職研修の充実
- マネジメント力強化

中堅段階
- ミドルリーダー育成
- 免許更新講習の充実

１～数年目
- チーム研修等の実施
- 英語・ICT等の課題へ対応

現職研修改革

採用段階
- 採用試験の共同作成
- 特別免許状の活用

採用段階の改革

養成段階
- インターンシップの導入（学校現場や教職を早期に体験）
- 教職課程の質向上

養成段階の改革

教員育成指標 ←都道府県が策定

育成指標策定指針 ←国が大綱的に提示

要・法改正：免許法、教員センター法、教特法

答申②←教育再生実行会議第７次提言

学校の組織運営改革（⇒チーム学校）

校長の リーダーシップの下 学校を運営

校長

・学校運営の基本方針
・学校運営や教育活動　等

予算の執行管理、情報管理等により校長のマネジメントを支える
※共同実施により学校の事務を効率化

教員　事務職員

社会に開かれた教育課程

よりよい社会を作るという目標のもと
教育課程を介して地域社会とつながる学校

授業等の学習指導
生活指導・保護者対応 等

子供　保護者

子供への個別カウンセリング
いじめ被害者の心のケア 等

子供へのカウンセリング等に基づくアドバイス
校内研修の実施　等

困窮家庭への福祉機関の紹介
保護者の就労支援に係る助言 等

教員をバックアップする多様なスタッフ

・・・ スクールカウンセラー　スクールソーシャルワーカー ・・・

地域連携の中核を担う教職員

要・法改正：学校教育法、地方教育行政法

答申①←教育再生実行会議第６次提言

地域からの学校改革・地域創生（⇒地域と学校の連携・協働）

コミュニティ・スクール

学校運営協議会

・校長のリーダーシップを応援
・地域のニーズに応える学校づくり

要・法改正：地方教育行政法

地域学校協働本部

保護者・地域住民・企業・ＮＰＯ等

地域の人々が学校と連携・協働して、子供の成長を支え、地域を創生

学校を核とした地域の創生

次代の郷土をつくる人材の育成、まちづくり

連携・協働　地域コーディネーター

「地域学校協働活動」の推進
- 郷土学習　・地域行事　・学びによるまちづくり
- 放課後子供教室　・家庭教育支援活動　等

要・法改正：社会教育法

「次世代の学校」の創生に必要不可欠な教職員定数の戦略的充実

子供たちが自立して活躍する「一億総活躍社会」「地方創生」の実現

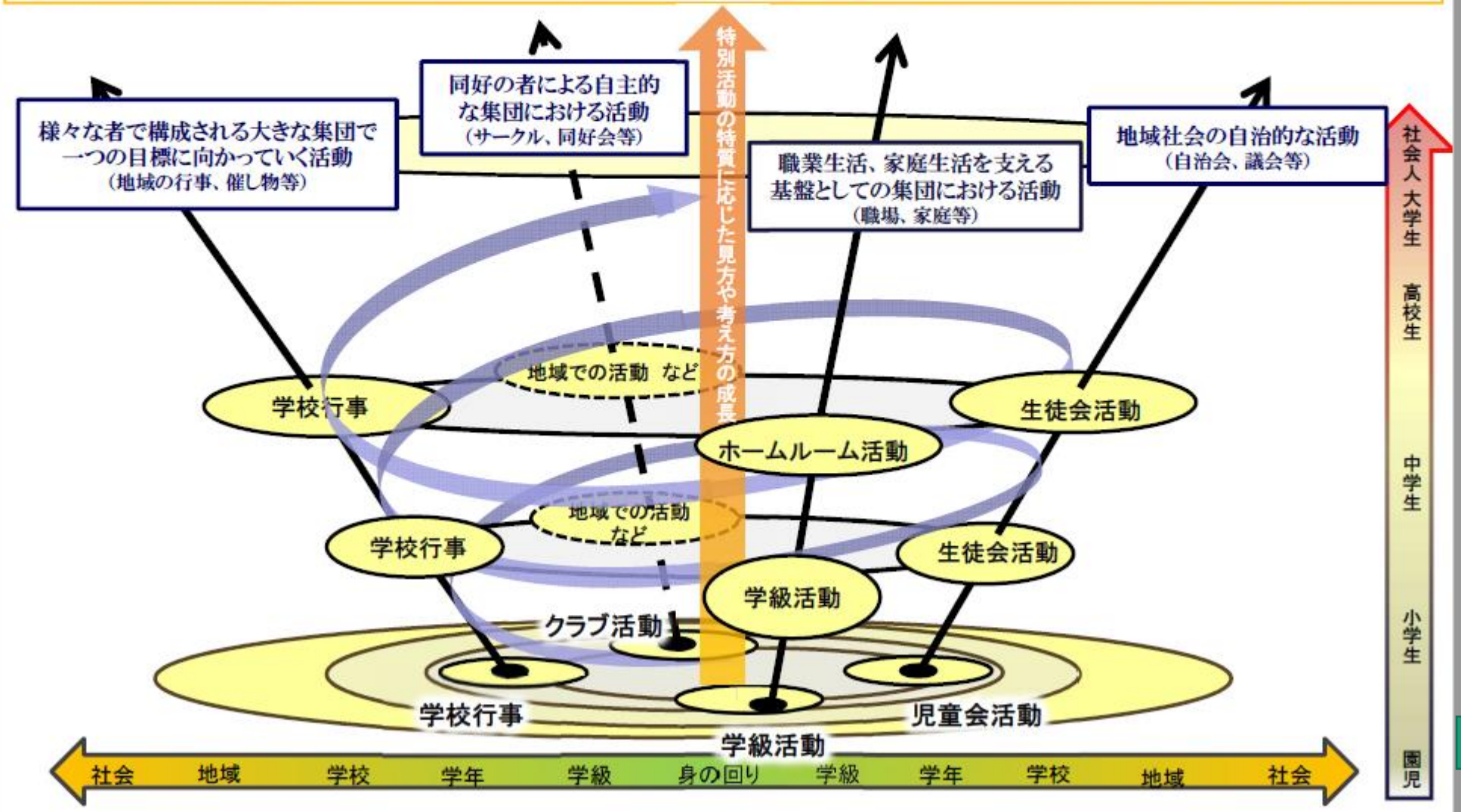
出典：文科省

特別活動における各活動の整理と「見方・考え方」（イメージ案）

平成28年6月22日
特別活動WG
資料3

《特別活動における「見方・考え方」》

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、集団や社会の形成者という視点から問題を見出し、
よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現の視点からその問題を解決するために考えること



出典：文科省

地域や社会そして世界の状況を視野に入れた教育活動とは

①教育課程を介してその目標を社会と共有していく

②「子ども像」資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいく

③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現していく

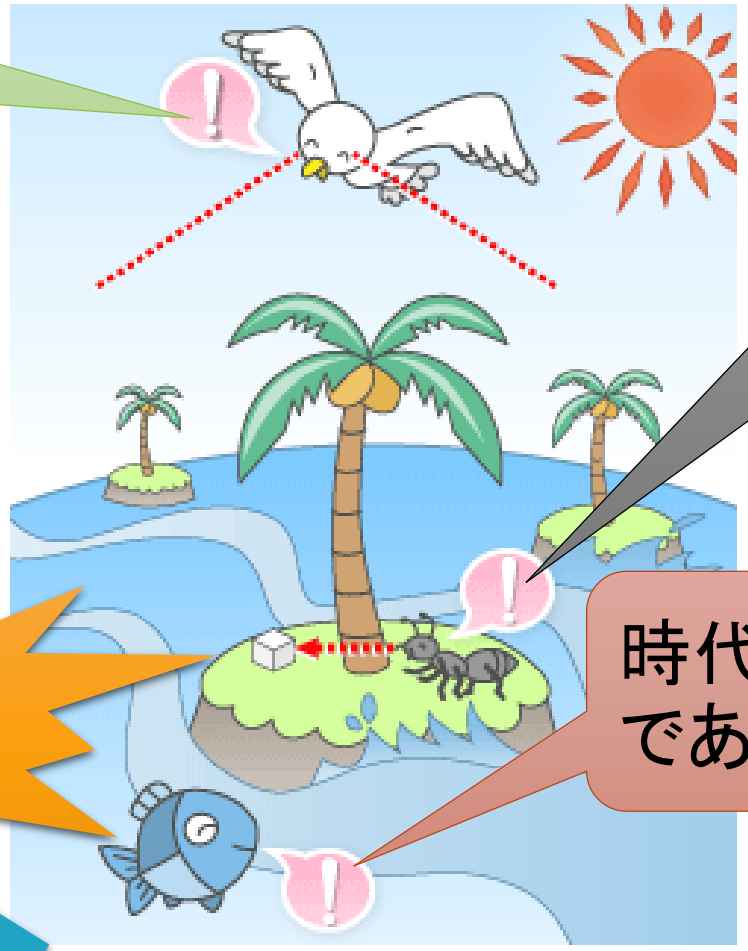
常に新鮮な視点で

細部にこだわらず、
全体像をとらえる。

普段見過ごしている
細部に目を向ける。

鳥の目

虫の目



新しい発想

時代がどちらの流れ
であるかを意識する。

魚の目

魚の目、鳥の目、虫の目
潮流　マクロ　ミクロ

出典：glovia.fujitsu.com

子供たちの資質・能力の育成は学校だけで出来ますか

学校での指導

＋

家庭での指導

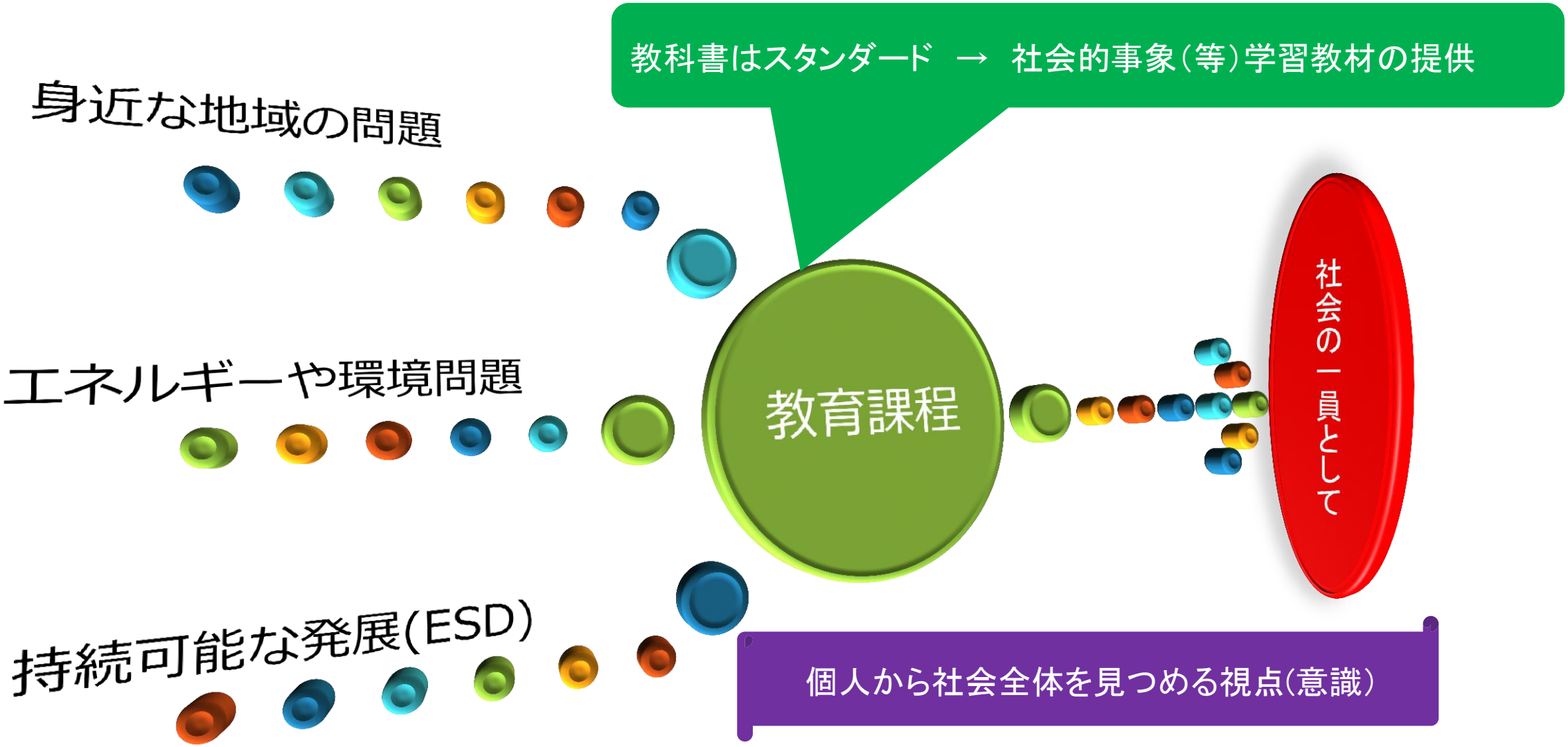
○教科の授業
○特別活動、部活動
○規範意識
○やる気、チャレンジ精神

地域
★学校支援
★家庭支援
★社会規範

★家庭学習の習慣
★規則正しい生活習慣
★規範意識
★やる気、チャレンジ精神

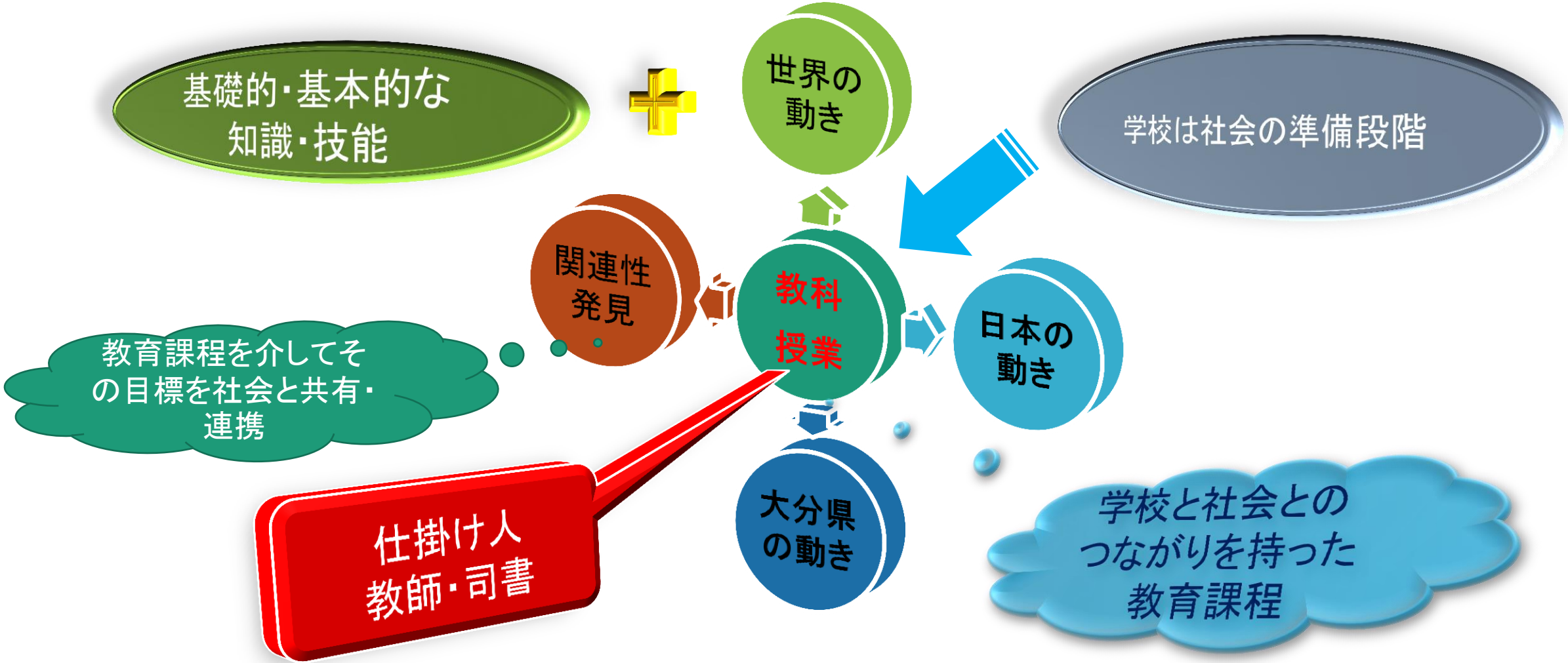
三者が絡み合って子どもの成果として表れる

社会に開かれた教育課程はキャリア教育の視点で



子供たちが変化の激しい社会を生きるための必要な力の育成に向け「子供たちが、現実の社会の問題に向き合うことで、社会とのつながりを意識」

社会や世界の状況を視野に入れた教育活動



例：社会とのつながりを新聞等で活用

生徒の活躍を紹介する

新聞を見る「きっかけ」「関心を持つ」

＋

学習に活用するNIE

自尊心の高揚＋学力

→

社会から認められる→プラスの変化の方程式

社会とのつながりを

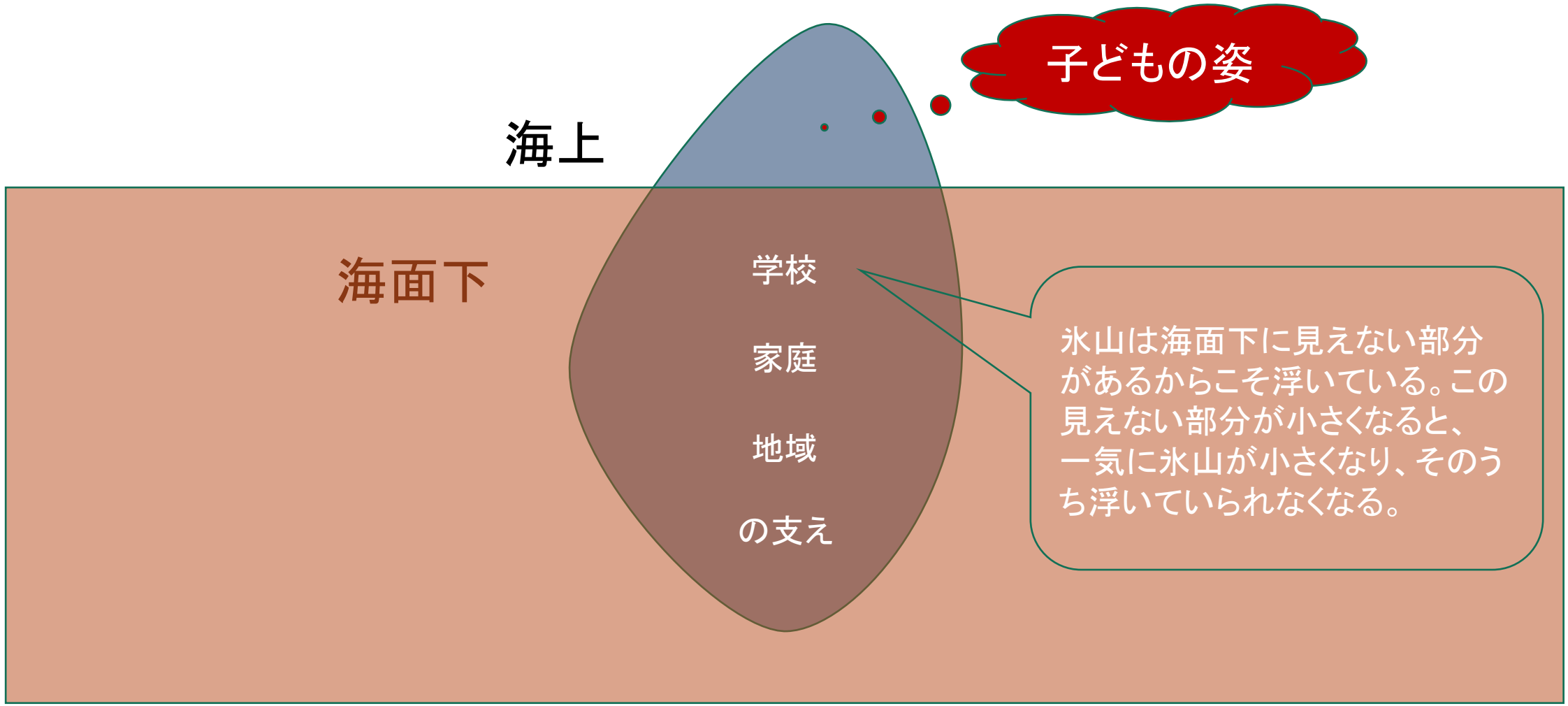
意識→意欲→行動

につながる

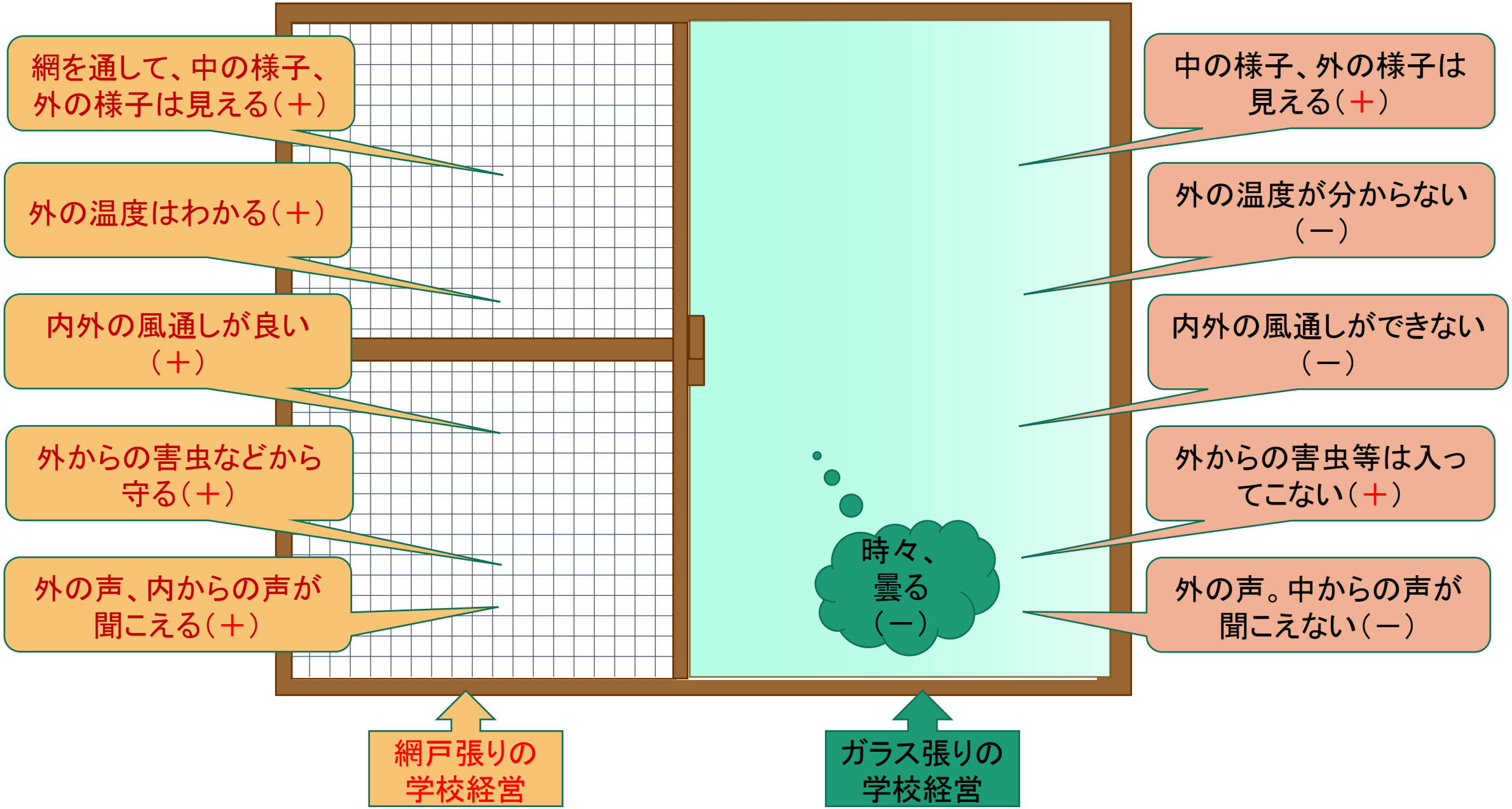
「社会に開く」には、学校の教育目標作成におけるプロセスが大事。

教職員や地域がスタートの段階から当事者として関わり、組織的に教育活動が展開されること＝チーム学校

学校・家庭・地域の支えが子供の姿



ガラス張りの学校経営から網戸の学校経営へ



学校ビジョンについて伺います

１．あなたの学校の学校教育目標は？

２．その教育目標を具現化するために、あなたはどのようなことに取り組んでいますか？

ビジョン策定のプロセスと活用

1. 参画がある
2. 職員全員に理解と納得が得られている（共有化）
3. その目標が分掌・学年・学級・個人ごとに具体な取り組みとしてされている
4. 教育活動で確実に実行されている
5. 事後評価とPDCAサイクルがされている

参加　と　参画

- 「参加」は単に集まりに加わることですが、
  「参画」は事業や計画に加わることを意味します。

- 「参加」は既にあるものに加わることを指し、
  「参画」は計画段階から加わることを指します。

- イベントなどに例えると、そのイベントに加わることは「参加」、
  イベントの企画・運営に携わる場合 「参画」となります。

ミッション・マネジメントにおいて重要なこと

学校教育目標の具現化に向けて展開

↓

目指す目標が明確であること

↓

教職員が学校として、目指す児童・生徒像、教師像、学校像を常に思い描く（明確化）

↓

ビジョン・学校教育目標

学校ビジョンの必要性

学校外部に対する機能

- 児童・生徒、保護者地域等への説明責任
- ビジョン・シナリオを示し、支援・協力を仰ぐ
- 校長の経営責任（公約・約束・契約）の明示

学校内部に対する機能

- 教職員の求心力としての存在
- 教職員の判断や行動選択のための前提
- 具体的な活動の意味を与え、意欲の喚起

学校ビジョン作成にあたって

- 学校ビジョンとは、わが校の使命・価値
- 教育活動を展開する地図・計画・行程表
- 目標に至る道筋を明確に示すもの

重要なこと → 組織的の取り組む

ビジョンの作成にあたっては、
全教職員が参画

↓ 目指す目標の共有

↓ 参画意識の高揚

学校ビジョンとは

児童・生徒や保護者、地域社会の願いや期待を踏まえ

目指す学校像や児童生徒像を描く

その実現に向けて、学校全体の中の具体的な課題と方策を考え

組織的に取り組む基本構想

学校のビジョンを形成するには

学校を取り囲む内外環境の分析（リサーチ）

- ①児童生徒の学力その他の特性
- ②家庭や地域社会の特性
- ③児童生徒、保護者、地域社会の学校への期待や要望
- ④教職員の教育観、専門性、力量
- ⑤学校の有する経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報、時等）

共有ビジョンの構築

内外の環境分析結果を → 教職員、保護者や地域住民が理解・納得

学校ビジョン＝共有ビジョン → 組織メンバーの協働意欲、相互の仕事としての結びつけ

組織目標の達成に向けて → 個人の向上心を高め → 組織の活気を生み出す

教職員共有ビジョン→教職員個人ビジョンへ

「個人」と「組織」をつなぐ＝マネジメント

「わたしのビジョン」から「われわれのビジョン」へ進化

協働システムとしての組織マネジメント

有機的な組織にするには

↓

組織編成のプロセスが重要！

学校組織づくり

教育目標＝「要」・・・・・「芯」

学校のビジョン

- 組織活動の方向性を示す「ひとつの目的地」
- 学校内部の教職員の活動の統合
- 行動の判断基準
- 教職員の意欲の喚起
- 学校外部へ学校教育活動の方向性を示す

目標管理のポイント

めざす学校

地域社会へ公表

学校経営ビジョン（教育目標・運営方針）

- 重点目標の設定・目標の管理
- 学校評価　P→D→C→A→

運営委員会・企画委員会

- 分掌・学年における目標管理
- アップダウンマネジメント

個人目標とモチベーションアップ・能力開発

- 自己申告による個人目標管理（自己評価）P→D→C→A→
- 組織目標と個人目標の統合

学校経営ビジョン作成組織・手順

WG
学年部・分掌会議

①学校の内部環境の分析（SWOT）

②学校の外部環境の分析（SWOT）

↓

企画・調整委員会

①児童生徒の実態の把握
②保護者や地域住民の願いの把握
③情報を分析し、課題等を整理（優先順位）

↓

WG
学年部・分掌会議

①企画調整会議から示された課題を基に協議
②児童生徒像、教師像、学校像をまとめる

↓

企画・調整委員会

①WG会議でまとめられた内容を検討
②グランドデザインの原案を作成
③校長が決定　→　職員に説明し周知・徹底

↓

学校運営協議会

コミュニティ・スクール学校運営協議会の承認

↓

公　開

保護者や地域、関係機関等へ公表

学校評価の活用

受け身ではなく

学校評価の本質は → 「児童生徒のよりよい姿の実現」を願って

学校・家庭・地域が連携・協働していく → 学校・家庭・地域が「児童生徒の現状と課題」を共有する

学校評価を → 児童生徒の成長支えるツールとして → 「当事者意識をもって評価する」

目標を協働して達成

子どもたちの成長を願って

社会に開かれた教育課程

学校の重点目標

三者が目指す目標の共有

家　庭

学　校

地　域

チーム学校で

学校の重点目標の達成に向け、学校・家庭・地域で定期的に議論を行いながら、協働して取り組み。

学校経営と学校事務

1　学校経営を支える二つの動きと三つの組織

①：動き　「教育内容に関するもの」

- 教育課程の編制と実施に関わるもの

②：動き　「教育条件に関わるもの」

- 教育課程を実施する上でその動きを支える活動

①組織：「教育活動の組織」

②組織：「研修・研究の組織」

③組織：「学校事務の組織」

学校教育目標の実現に向かって相乗的に作用

企画・調整委員会による情報の収集と分析

児童生徒の実態を把握 ＋ 保護者や地域の願いの把握

学校評価を実施して

生徒の意識調査・評価 ＋ 保護者の意向調査・評価 ＋ 地域の意向調査・評価 ＝ 結果内容を公開し共有する

SWOT（スウォット）分析

内部環境要因	外部環境要因
学校の強み （＋）	支援的なもの （＋） 機会
学校の弱み （－）	阻害的なもの （－） 脅威

「学校の課題に対する教職員の分析」シート

氏名

プラス評価的要因（学校内外）
〇地域が協力的で理解がある
〇教職員は責任感が強く意欲的
〇素直でまじめな生徒が多い

マイナス評価的要因（学校内外）
〇地域は学校に対して遠慮がある
〇教職員間のコミュニケション不足
〇生徒はまじめだが少しおとなしい

教職員からみた学校内外の環境分析（課題等の整理）
〇地域は学校に協力したいが、学校にそれを受け入れる仕組みが不足
〇教職員は教材研究や新たな教育課題への対応に消極的な面もある
〇夢や目標を持っていない生徒が多く、積極性に欠ける生徒が多い

教職員自身に対する自己分析
〇保護者や地域住民のニーズに応え、連携協力して生徒を育てていく
〇他の教職員と積極的にコミュニケションを取りながら教育活動に努める

教職員からの提案シート
（めざす生徒像、教職員像、学校像）

氏名

【目　標】
〇生徒像・・・他人を思いやり、学習活動等に主体的に取り組もうとする生徒。
〇教師像・・・情熱的を持ち、生徒、家庭、地域に信頼される教師。
〇学校像・・・「地域とともにある学校」、保護者や地域連携・協力して子どもを育てる。

可能な方向

【本年度の重点目標】
〇基礎の学力の定着のため、習熟度別指導などの個に応じた指導を行う。
〇学習指導と生徒指導を連動した取組をすることで授業規律の改善を図る。
〇保護者や地域と連携・協力して「地域とともにある学校」CSを推進する。

具体の取組

【重点的取組】
〇生徒による授業評価並びに保護者、地域住民による学校評価を実施する。
〇個々の生徒が授業での理解を深めるために、習熟度別の授業の時数を増やす。
〇地域と連携した「あいさつ運動」を実施していく。

○○学校教育目標（ビジョン）

【学校教育目標】

保護者や地域の願い

○基礎的・基本的な学力を身につけてほしい。
○学校・家庭での生活習慣の改善を連携して取り組む。

重点目標

○基礎の学力の定着
○学習指導と生徒指導を連動した授業規律の改善
○「地域とともにある学校」コミュニティ・スクールとしての推進・充実

生徒の意識

○生徒にわかる授業の工夫。
○生徒の意見や悩みをよく聴く。
○教師全員で統一した生徒指導の徹底

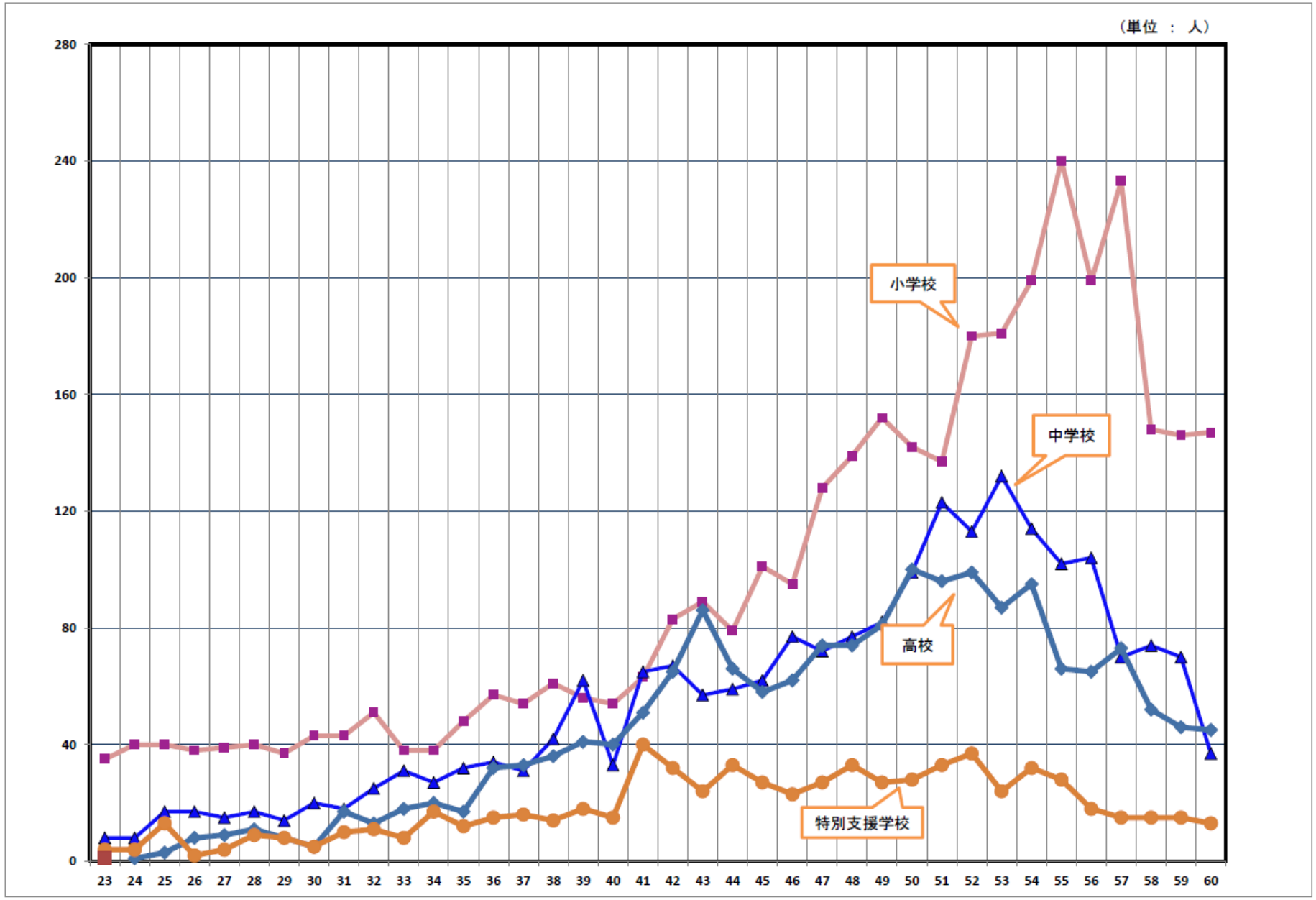
重点的取組

○習熟度別授業を数学・英語において全学年で実施
○家庭学習の課題の徹底

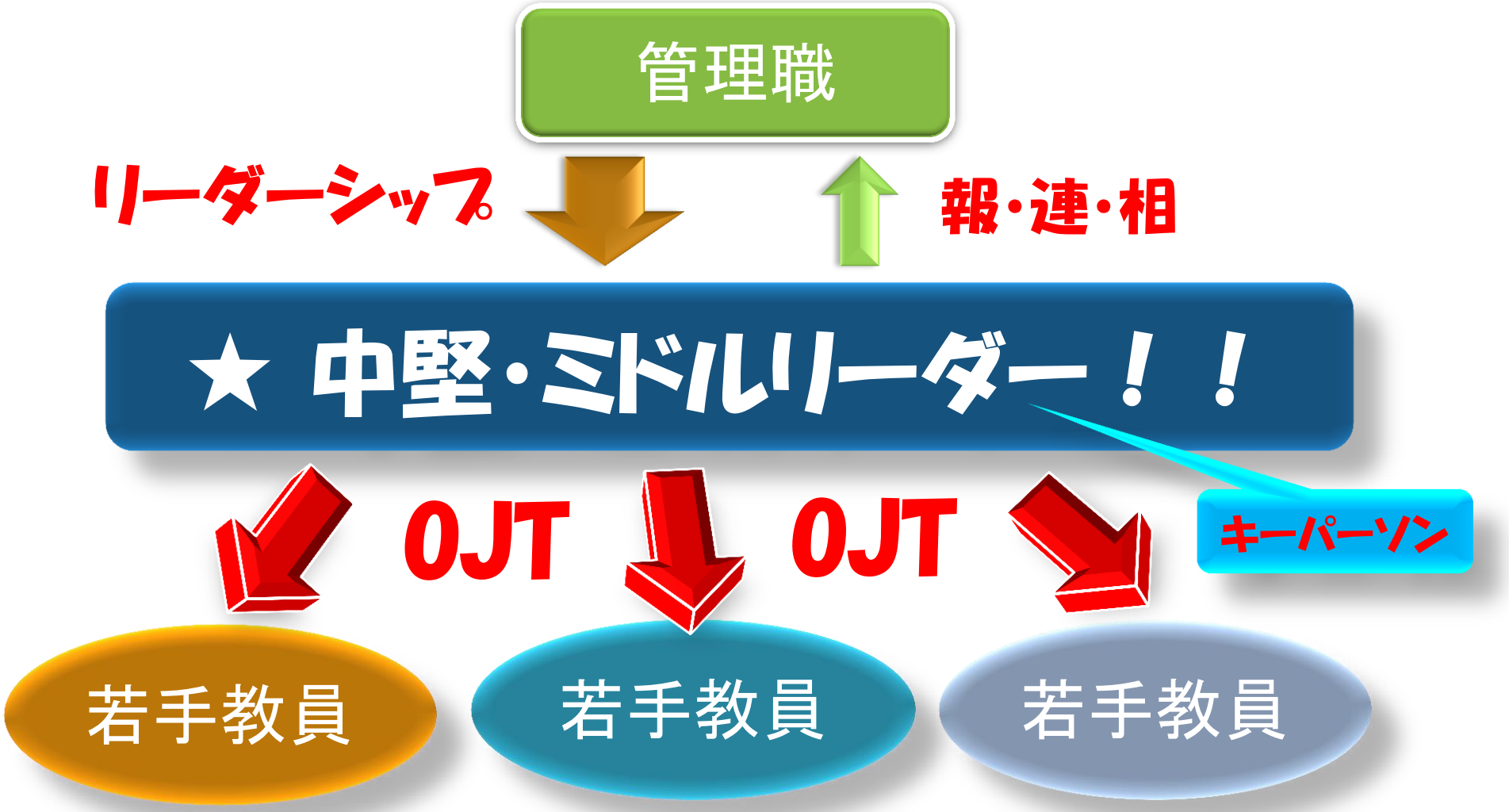
○保護者や地域と連携して「あいさつ運動」を毎朝、職員、保護者、生徒が実施
○地域行事への積極的な参加

○CSとして、保護者や地域へ情報の発信
○保護者・地域の学校評価を実施し、改善を行う

平成27年度教員年齢構成（H27．4．1時点在職者の平成27年度年齢）



組織で若手教職員を育てる



ミドルリーダーを育てる

参謀は　＝　ミドルリーダーである

ミドルリーダーは学校全体を見る視野を持つ

形式的組織から　→　実質的組織へと

学校運営への参画＝共通の目標を共有

校内の“風通し”

校内の実践の頭(実践頭）＝キーマン

学校は教師の情熱で変わる

1. 教師も、認められて成長

2.「当事者意識」を持つ

3. やりがいや達成感、「働きがい」

4.「信頼して仕事を任せる」

人生の方程式

人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力

「考え方」こそが人生を大きく左右する

『京セラフィロソフィ』 稲盛　和夫　氏

変化の激しい社会の動向に目を向け
「これからの時代を生きる子供たちのために」

課題解決に向けたツールとして

コミュニティー・スクールの導入の経緯・必要性

みんなで・・・さらなる学校と地域の連携・協働に向けて

①知る（情報共有）

子供には、地域には
どんないいところがある？
どんな課題がある？

②考える（熟議）

こんな子供に育ってほしい！
こんな学校を創りたい！
目標・ビジョンの共有

③実現させる（協働）

学校、地域、保護者、子供の役割分担
共有した目標に向かって、共に汗を流そう！
学校を核とした地域ネットワークでつながろう！

④振り返る（評価）

持続可能な取組にするために
協働する楽しさ、喜び、手応えを
分かち合おう！

心を合わせて
地域の子供を育む

コミュニティ・スクール

マネジメント

校長のリーダーシップのもと
目指すビジョンの達成に向かって、教職員全体がチームとして力を発揮し、地域の力を生かした学校運営を！

地域とともにある学校運営に欠かせない3つの機能

熟議

- 当事者意識をもって【熟議】と【討議】
- 「学校や地域の課題」「目標」を【共有】

協働

- 学校運営に地域の人々が【参画】
- 共通の目標に向けて【連携・協働】

マネジメント

- 目標達成に向けた校長のリーダーシップ
- 地域人材や資源等を生かした学校運営

参加　と　参画

- 「参加」は単に集まりに加わることですが、
  「参画」は事業や計画に加わることを意味します。

- 「参加」は既にあるものに加わることを指し、
  「参画」は計画段階から加わることを指します。

- イベントなどに例えると、そのイベントに加わることは「参加」、
  イベントの企画・運営に携わる場合 「参画」となります。

コミュニティスクールとは

（仕掛け・ツールとして活用）

学校運営協議会を設置した学校

（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第四十七条の五：平成16年）

- 学校運営協議会の主な役割
- 地域の声を生かす合議制の機関
- 法律に基づき、一定の権限と責任がある
- 学校運営の「基本的な方針」を承認（必須）
- 保護者や地域住民が学校運営に参画（責任と意見の反映）
- 教育委員会や校長に意見を言うことができる（任意）
- 教職員の任用に関する意見を述べることができる（任意）

今なぜ、コミュニティ・スクールなのか

地域の人々と目標を共有した上で、地域と一体となって子どもたちを育む
『地域とともにある学校』へ

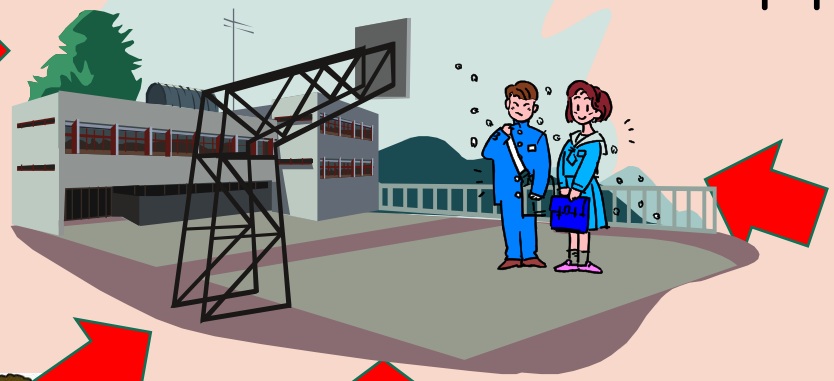
コミュニティ・スクールは地域とともにある学校づくりのための有効なツール

コミュニティ・スクールは、育てたい子供像、目指すべき教育のビジョンを保護者や地域と共有し、目標の実現に向けてともに協働していく仕組み。
学校と地域の連携・協働体制が組織的・継続的に確立され、協働の基盤が確固たるものに。

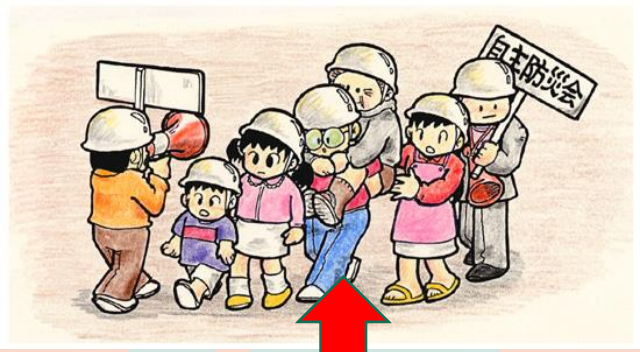
これまでは　学校への支援・協力　であった

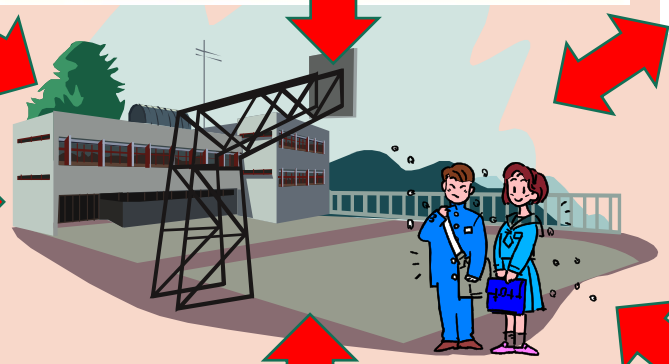
PTA等学校支援組織

一方方向の支援・協力



これからは　学校が地域に協力・貢献する
地域の行事に参加することで地域を知る



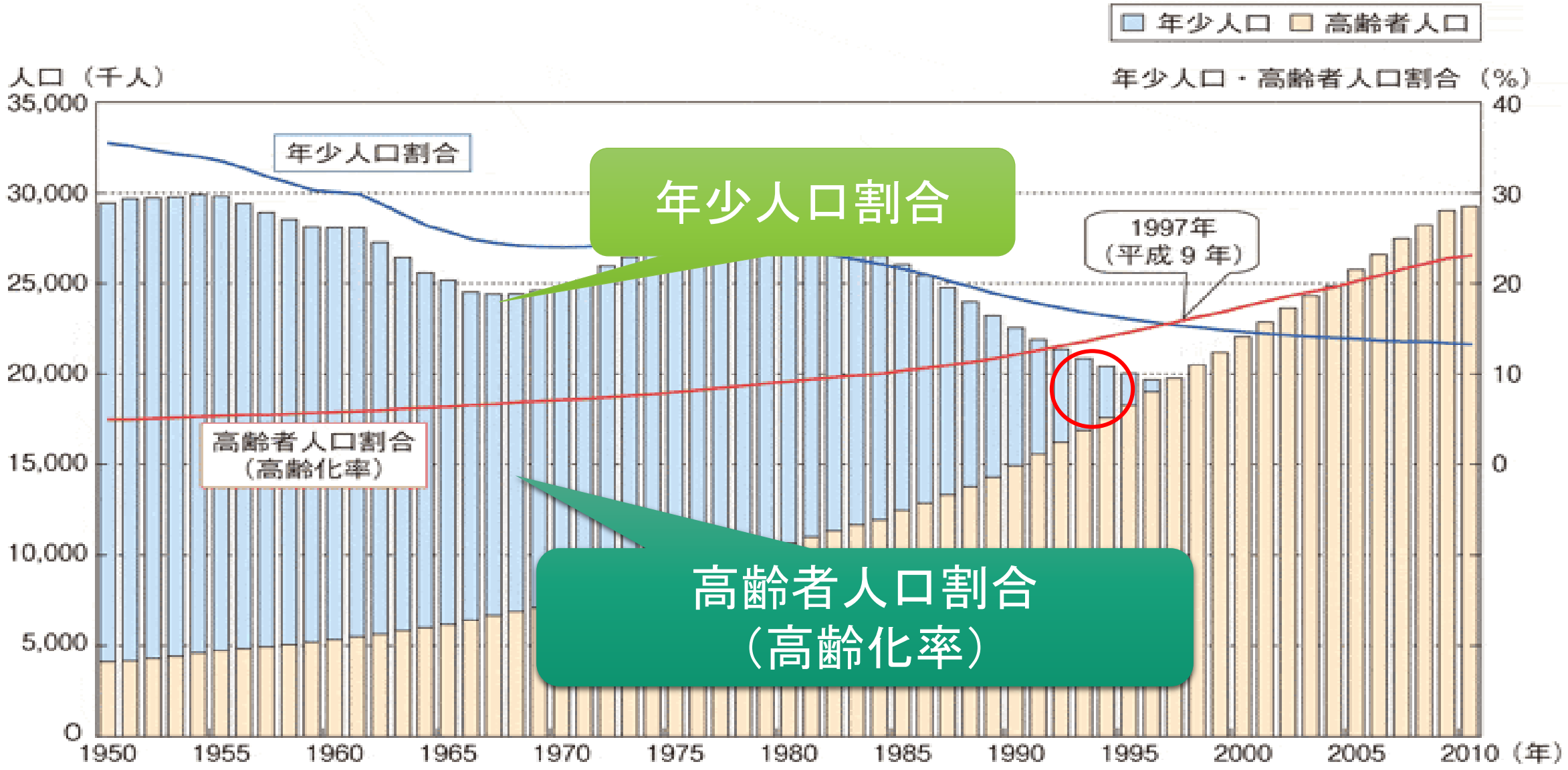


双方向の連携・協働

学校と地域は相互補完

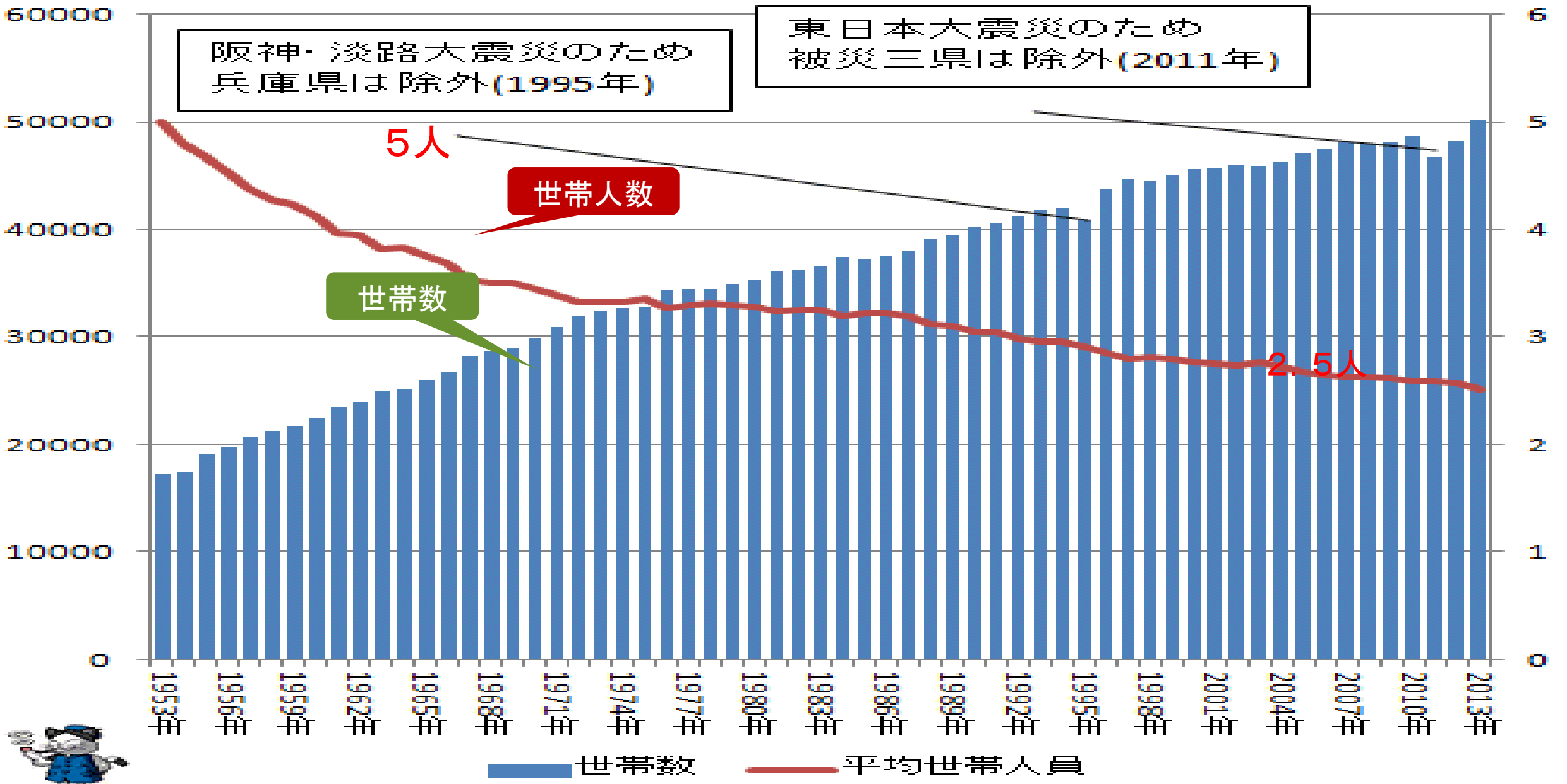
コミュニティ・スクールの取組で広がる魅力

子供にとっての魅力	○子供たちの学びや体験活動が充実します。 ○自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。 ○地域の担い手としての自覚が高まります。 ○防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができます。
教職員にとっての魅力	○地域の人々の理解と協力を得た学校運営が実現します。 ○地域人材を活用した教育活動が充実します。 ○地域の協力により子供と向き合う時間が確保できます。
保護者にとっての魅力	○学校や地域に対する理解が深まります。 ○地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。 ○保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。
地域住民にとっての魅力	○経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながります。 ○学校が社会につながり、地域のよりどころとなります。 ○学校を中心とした地域ネットワークが形成されます。 ○地域の防犯・防災体制等の構築ができます。



資料：総務省「国勢調査」、「人口推計」を基に、内閣府において作成。
注：国勢調査年については、年齢不詳分を按分している。

平均世帯人員(人)と世帯数推移(-2013年)



② 地方消滅という、今そこにある危機

2040年に49.8%の市区町村で
20～39歳の女性の数が5割以上減り、
推計対象の全国約1800市町村中、
896が消滅するおそれ

（日本創成会議
人口減少問題検討分科会）

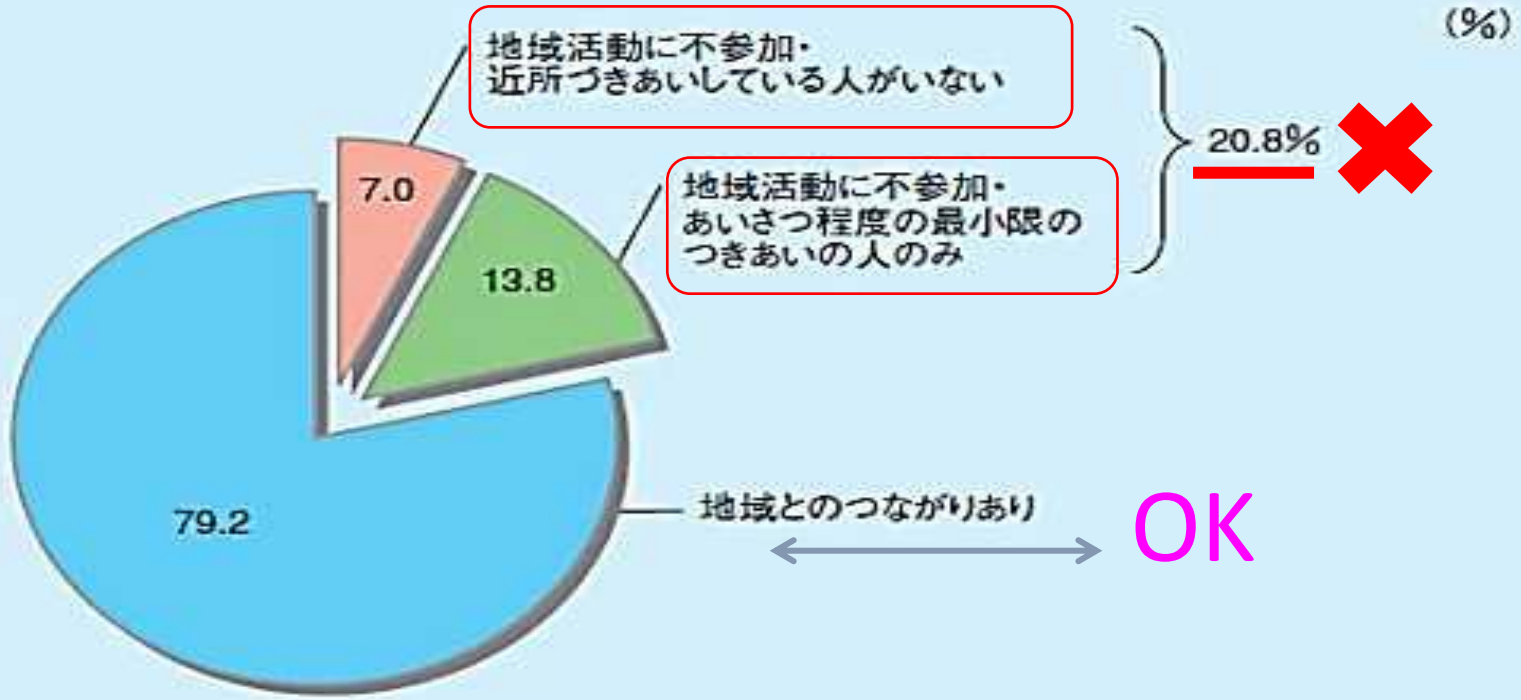
■ 人口移動が収束しない場合において、２０４０年に若年女性が５０％以上減少し、人口が１万人以上の市区町村（３７３）

■ 人口移動が収束しない場合において、２０４０年に若年女性が５０％以上減少し、人口が１万人未満の市区町村（５２３）

※データは、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成25年３月推計）による

地域活動および近所付き合いの程度

〇地域から孤立している人は全体の2割を占める



（備考）
1. 内閣府「国民生活選好度調査」（2007年）により特別集計。
2. 「地域活動への不参加」は、「町内会・自治会」、「その他の地縁活動」、「スポーツ・趣味・娯楽活動」、「NPOなどのボランティア・市民活動」のいずれの地域活動にも参加していないことを示す。
3. 「近所づきあいしている人がいない」は、「あなたのご近所づきあいについてお聞きします。次に挙げる項目にあてはまるご近所の方の人数をお答えください。」という問に対し、「互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている人」、「日常的に立ち話をする程度のつきあいの人」、「あいさつ程度の最小限のつきあいの人」のいずれもいない人を示す。「あいさつ程度の最小限のつきあいの人」は、同質問に対し、「あいさつ程度の最小限のつきあいの人」のみが1人以上いる人を示す。
3. 回答者は、全国の15歳以上80歳未満の男女3,311人。

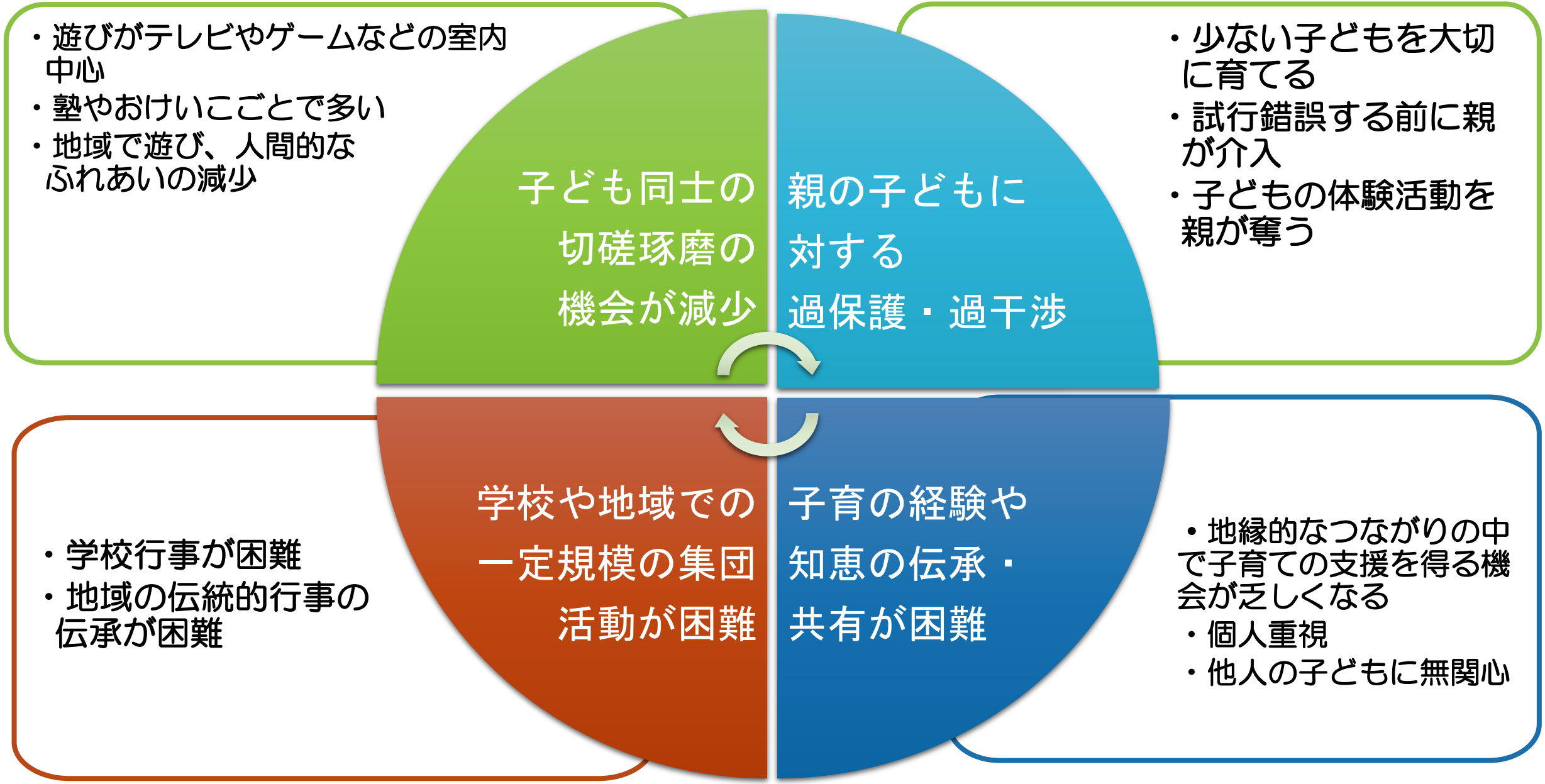
学校、家庭・地域等の共通の課題

これまでの家庭教育は、規範意識、礼儀・作法などを、家庭や社会の生活習慣の中で伝承・共有してきた。

少子化・核家族化

就学前の家庭教育の文化が、子に伝え難い傾向が現れてきた。

少子化が教育に及ぼす影響



学校・家庭・地域と協働で子育てしましょう！

1 家庭で毎日決まった時間に学習をする習慣

2 食事や睡眠時間など基本的な生活習慣の確立

3 テレビやゲームに費やす時間の約束

4 携帯電話やパソコンの利用の仕方や利用時間の約束

5 家庭での読書習慣の徹底

6 子どもに「心の教育」を通じ、豊かな人間性をつける

7 親子で話し合う、ふれあう時間の確保

8 社会的なマナーやルールを身に付けさせる

地域とともにある学校づくりをめざして

～マネジメント～

コミュニティ・スクールに向けて

学校運営協議会
当事者となって学校教育を考える

教育課程など学校運営にあたっての基本方針を説明します

説明を受けて審議し承認します

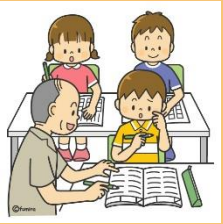
学校運営に意見を述べます

一体的
協働・連携
共有

これまでの学校支援機能
学校応援団としての実践活動

環境整備

読書活動支援



学習支援

授業支援

行事運営支援

学校評議員から学校運営協議会への発展

当事者意識を持って学校運営に対する意見を述べることができるようになります。
学校運営についての熟議の場を持ち、その結果をもとに協働していくことで、学校運営全般への参画を促します

学校評議員 → **学校運営協議会**

校長の求めに応じて意見を述べることができる

※合議体ではない

※合議体・・・複数の構成員の合議によってその意思を決定する組織体

<合議体>

①学校評議員の選任は、協働して活動できる人を選ぶ

②学校の課題や目標を共有した上で、学校運営について積極的に意見交換できる合議体を形成し、学校運営に参画していく素地をつくる。

③学校評議員が積極的に意見を述べていくために、学校行事や授業など、実際に子供の姿や学校の取組を見て教職員と意見交換するなど。

④学校評議員を学校運営協議会委員に任命し直す、学校運営協議会へ発展。

学校評議員から学校運営協議会を置く「コミュニティ・スクール」に移行することによる主な魅力・メリット

- 学校運営の当事者として、学校運営協議会委員の意見が学校運営に反映され ➡ 学校運営の改善・充実
- 学校・家庭・地域において、共通したビジョンをもった取組の展開が可能となり ➡ 一方的な支援にとどまらない、主体的・能動的な取組の展開
- 基本方針の承認を通じて ➡ 校長の地域の人々や保護者に対する説明責任の意識が向上
- 地域の人々や保護者の理解・協力を得た ➡ 風通しのよい学校運営が可能
- コミュニティ・スクールの場合には多様な人材の英知を結集する ➡ 学校運営の改善を果たすPDCAサイクルを確立

コミュニティ・スクールを導入するにあたって、最初に乗り越えたこと

教職員の不安 》 理解

先入観　　子どものために必要

＊地域住民や外部が学校教育活動に関わってくると

★外部との連携は、仕事が増える

★これまでの仕事の流れが壊れる

★授業参観されることへの抵抗感

★人事に関する意見

教職員の不安解決のための戦略

PDCAサイクルの考え方で意識・行動を変える

☆教職員意識の改革

- 学校課題の共通認識と分析（ミッション）
- グランドデザイン（ゴール・イメージ）
- ゴールに向かう創意工夫（戦略）

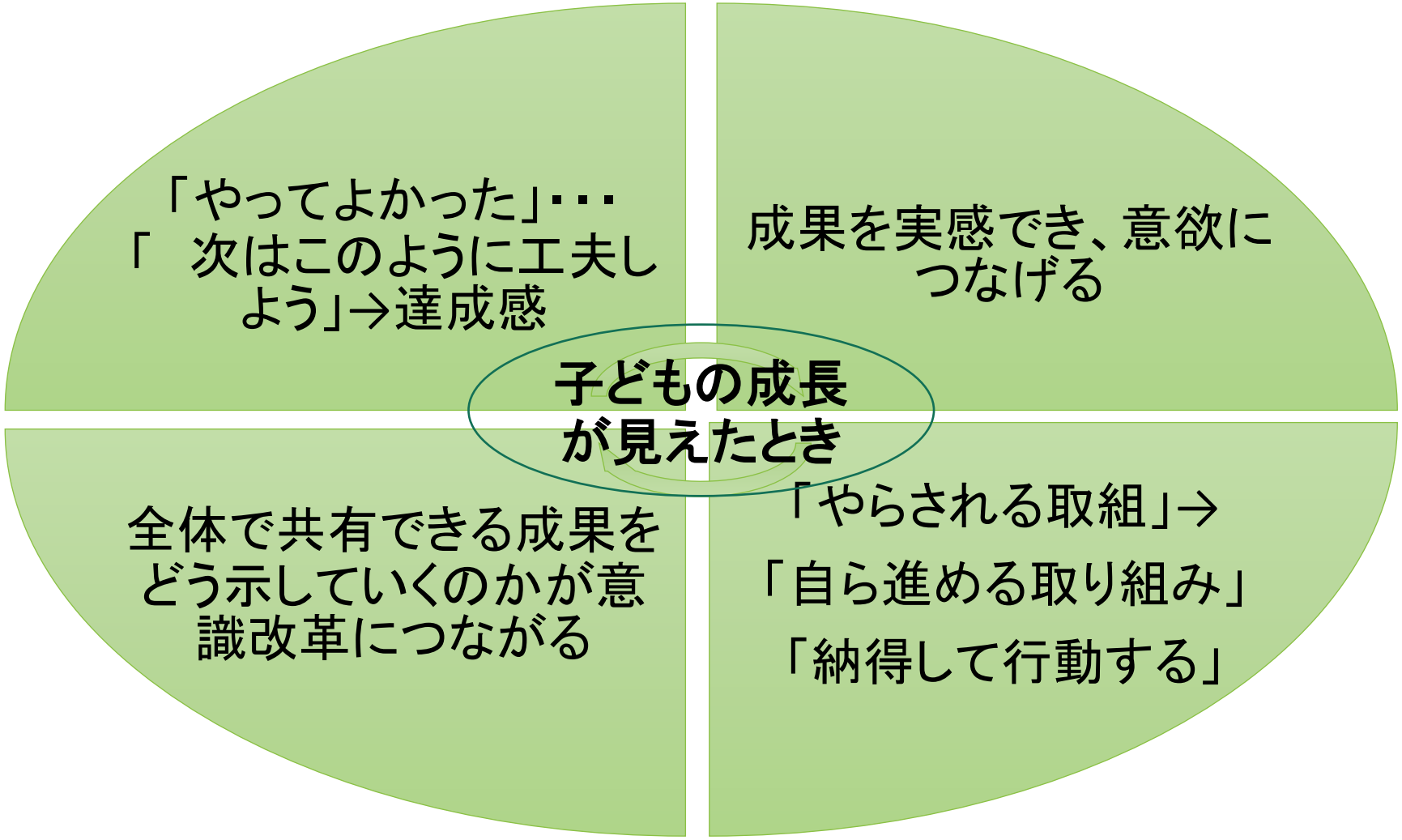
☆全員で取り組む組織づくり

- 目的の明確化、ビジョンの共有
- 課題・目的達成型組織への改善

教職員の士気を高め意識改革と行動化

子どもの成長が見えたとき

教職員の意識が変わるとき



これからの設立に向けての推進の流れ

地域の特色を生かした学校運営協議会（CS）つくりましょう！

1．地域の特色は

①子ども
②地域人材
③地域資源等

地域の推進委員、保護者
と教職員が一緒になって

話しましょう
熟議です

2．組織体制　オンリーワン！！

コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールの円滑な運営のためには

Step1 教職員による熟議

- 地域と連携してどのような取り組みをしていくのか
- 地域に支援してもらいたいことは何か
- 地域とともにどのような学校づくりをしたいのか

＋

Step2　地域・保護者による熟議

- どのような子供たちに育てたいのか　＝子供像
- 学校のどのような協力・支援ができるのか
- どのような学校になってもらいたいのか
- 地域が学校に協力してもらいたいことは

＝

Step3　地域・保護者・教職員による熟議

- 地域と連携・協力し合った学校づくりとは？
- 子供たちがどう育ってほしいか？　＝　共有する
- 学校の課題、教職員の困りごと、子供たちを取り巻く地域の課題等

熟議のすすめ

学校と地域は少しづつ焦らず関係性を気づいていくことが大切です。

すでに活動を行っていることを参考にアドバイス…熟議です！

- **地域と学校の相互補完（ウイン・ウイン）の関係**

コミュニティ・スクールの導入に向けた組織体制づくり

学校・家庭・地域の協働による学校運営の改善・教育活動の充実

学校運営協議会

基本方針の承認

学校・教育委員会への意見の申出等

①熟議

目標・ビジョンの共有・熟議

②協働

目標に向かって協働して活動

③マネジメント

組織マネジメントの強化

コミュニティ・スクールに指定（（学校運営協議会の設置）

学校と地域が課題を認識し

共通の目標

学校・家庭・地域みんなの思い

熟議

保護者の思い

教職員の思い

地域住民の思い

地域ともにあるこれからの学校の姿を地域全体で共有

★教職員の研修（理解・納得）
★部会組織づくり
★CS推進フォーラム等への参加
★地域啓発リーフレットの作成
★地域と教職員の合同研修
★地域・保護者・教職員の熟議

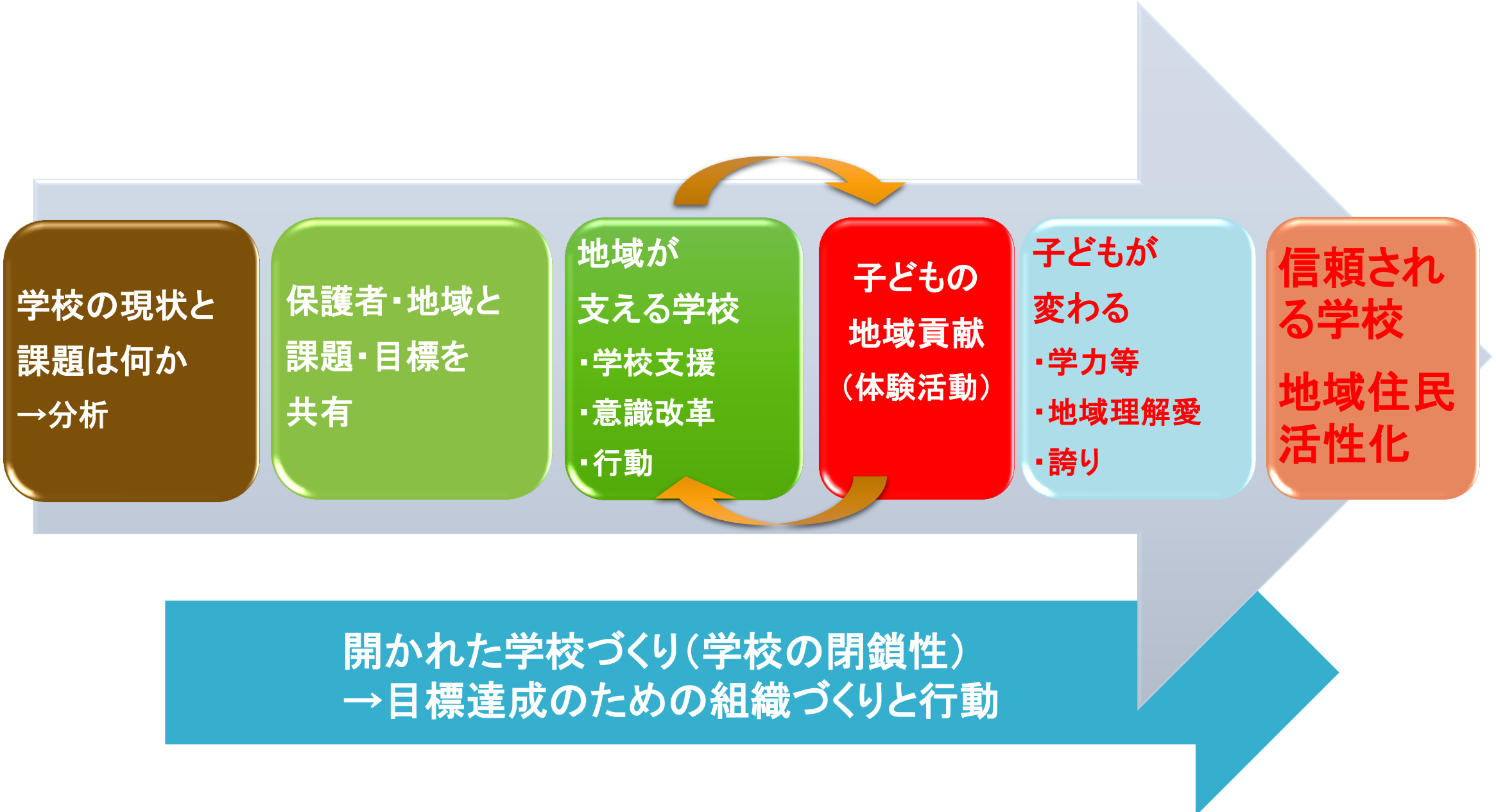
★家庭・地域への情報提供
★組織体制づくり
★準備委員会委員の選定
★準備委員会の開催
★先進校視察
★研修会の実施

★運営組織体制づくり
★研修・視察

★学校運営協議会規則の作成・制定
★学校運営協議会の選定・任命

教育委員会の準備

CSを活用した教育目標実現への過程



学校の現状と課題の分析の手段

１内部環境・・・教職員、生徒の思い

① 教職員へのアンケート調査
② 生徒へのアンケート調査

２外部環境・・・保護者や地域住民の思い

①地域の会議等に参加
②保護者や地域へのアンケート調査
③保護者や地域への情報の提供

ビジョン作成に向けての情報の収集と分析

児童生徒の実態を把握 ＋ 保護者や地域の願いを把握

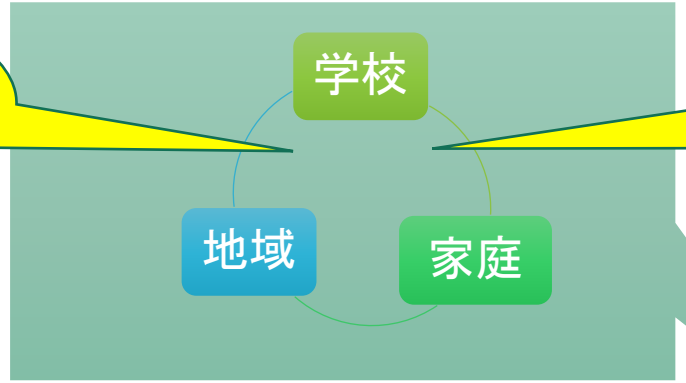
学校評価の実施

コミュニケーション・ツールとして

生徒の意識調査・評価 ＋ 保護者の意向調査・評価 ＋ 地域の意向調査・評価 ＝ 結果内容を公開し、共有する

改革の流れ

「共有化」



「見える化」

情報開示・情報共有

- 学校だより
- 学校のホームページ
- 地域の会議への出席

現状・実態分析

- アンケート実施
- 学校評価の活用

具体的な方策

- 目標の共有
- 学校組織改正
- 双方向の交流

一方向から双方向への関係へと

これから → 【ウイン・ウインの関係】

学校が保護者や地域の声を受け止めるシステムづくり

教職員それぞれの保護者・地域に対する姿勢・態度の見直し
←（教職員の意識改革）

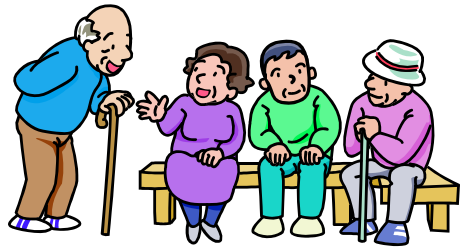
学校から積極的に地域の行事などに参加する
（地域・社会貢献）←（地域からの信頼を得る）

保護者・地域との関係づくりは、<u>教職員それぞれが鍵を握っている</u>

地域人材の力を生かす→地域を元気にする

保護者や地域の意向が反映される仕組みが出来た。

地域と学校が相互に
支え合う仕組みづくり

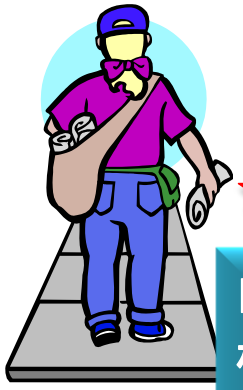


保護者や地域は学校に協力
したいと待っていた。
→そのチャンスが出来た。

「学校のために役に立っている。」
と達成感・自己満足感・充実感が
得られ、益々協力的なってきた。
＝当事者意識、参画意識、責任
感が芽生えてきた。

学校の課題や目標・ビジョンの共有が大事

☆学校からの情報発信が、地域の信頼をつかむ。



「おやじの会」や地域住民のネットワークにより、
様々な職業の専門的技能（匠）集団が学校を支
える組織として活用できるようになった。

子どもや地域の実態を共有

学校は保護者や地域へ積極的な情報提供

学校・家庭・地域が連携・協働

学校・家庭・地域が
「児童生徒の現状と実態」を共有する

「保護者や地域住民に当事者意識の浸透」

「子供たちの成長」を願って

目指すべき学校運営の在り方

「子どもの豊かな学びを創造し、地域の絆をつなぐ～地域とともにある学校づくりの推進方策～」

学校と地域の人々との間での目標の共有

・当事者かでの納得のプロセスが不可欠

地域の人々の学校運営への参画

・共有した目標に向かって活動

学校と地域の人々の相互理解と信頼関係

・当事者意識を持って「熟議（熟慮と論議）」を重ねる
・学校と地域が「協働」して活動する
・学校の組織としての「マネジメント」

〈仕掛け〉
学校運営協議会
学校地域支援本部等

「地域とともにある学校」

「待っていても情報は来ない！」

学校評価は学校と地域をつなぐ手段

アンケート結果や学校評価の公開と課題の共有

学校だよりやホームページ等で学校情報の発信

地域に積極的に学校教育活動等を説明

新聞や町の広報誌を活用し宣伝

保護者・地域等との雑談からニーズの収集

学校・家庭・地域で協働

児童生徒の将来の成長を願って

学校、家庭、地域の役割（一体となって）

学校では、学問を学ぶ

・家族・社会の一員として、職業・社会生活基盤の形成に必要な基礎・基本を習得できるようにする役割

家庭では、生活習慣や心の持ち方を学ぶ

・教育の出発点である基本的な生活習慣・生活能力、基本的倫理観、社会的マナーなど教える役割

地域では、地域や社会のルールを学ぶ

・世代を超えた活動の中で子どもたちを育てる役割

これからの学校が目指すもの

学校、家庭地域が目標や課題を共有

地域住民の学校運営への参画の促進

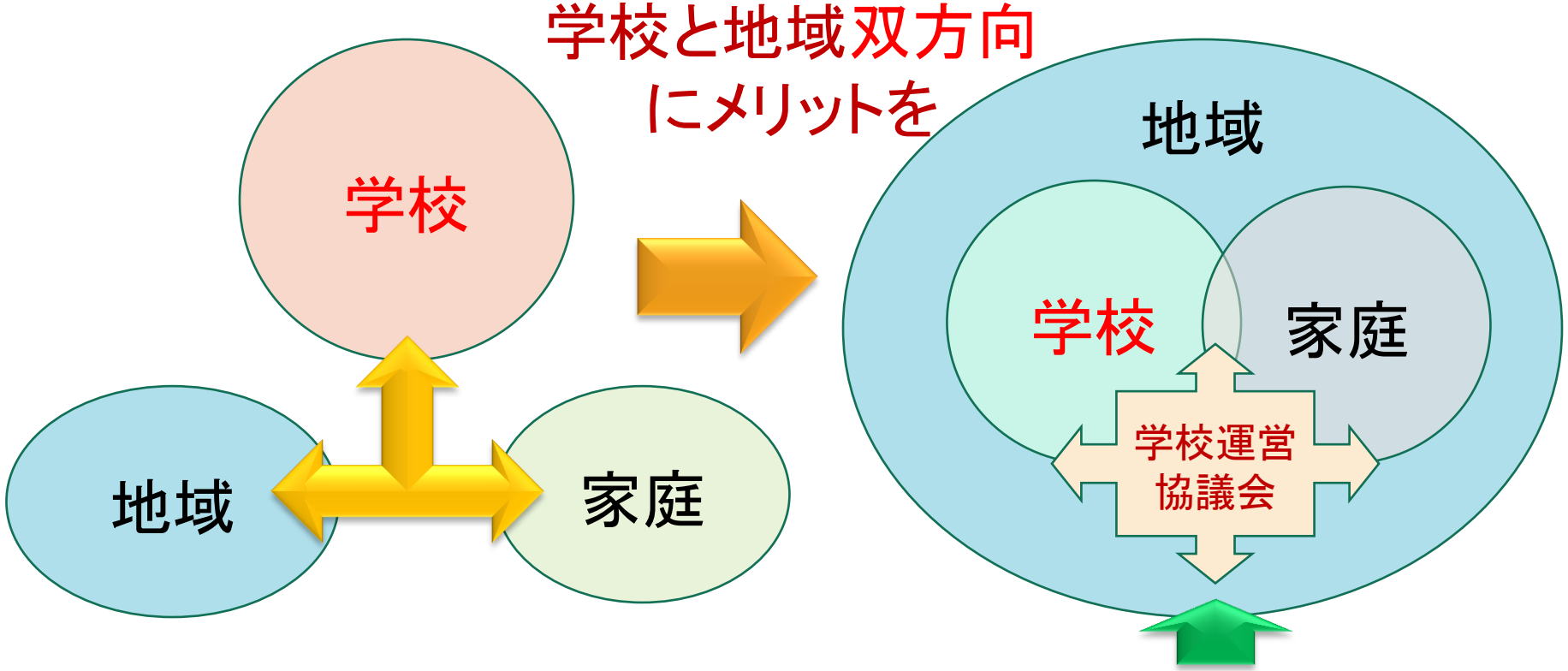
地域力を活かした学校支援

学校力を活かした地域づくり

↓

コミュニティ・スクールをツールとして

学校と家庭・地域社会の関係



独立した立場から
一方方向の関係

相互に学びの場

支え合いながら学びあう
学校づくり＝地域づくり

- 地域の方（保護者）がいつも学校（私たち）を見守ってくれている。

- 地域の行事等に参加することで、地域の一員として認められ必要と期待されることで、子どもが地域の一員としての自覚が生まれてくる。

～地域の役割～
子どもは地域の一員

～子どもの役割～
地域を誇りに思う

健全な生徒の育成（落ち着いた生活）

コミュニティ・スクールは地域の絆を生み地域の未来をつなぐツールとして

地域への愛着と誇り

参画することが学びの場

関わり

目標を共有し
連携・協働で

地域の一員としての自覚の芽生え

当事者意識の芽生え

学校を地域コミュニティーの核として、
ふるさとの未来を任せる人材の育成

コミュニティー・スクールへの期待

地域の活性化の循環システム

人づくりと地域づくりの好循環を生み出す

学校が変わる（変われば）

教師が変われば

子どもが変わる（変われば）

家庭が変わる（変われば）

地域が変わる（変われば）

町が変わる

最後に、振り返りとして

地域とともにある学校運営に欠かせない3つの機能

熟議

- 当事者意識をもって【熟議】と【討議】
- 「学校や地域の課題」「目標」を【共有】

協働

- 学校運営に地域の人々が【参画】
- 共通の目標に向けて【連携・協働】

マネジメント

- 目標達成に向けた校長のリーダーシップ
- 地域人材や資源等を生かした学校運営

セルフ・マネジメント

- 「自分自身という貴重な資源を最大限活かし、まず自身が成果を上げる」という意味です。
- ドラッカーはこう言っています。
- 「一流の仕事をするには、まず自己の強みを知ること。そして、仕事の仕方を知り、学び方を知る。価値観を知る。自己を知ることで、得るべきところがわかり、なすべき貢献が明確になる。」

- ■　自分独自の強み、得意な仕事の仕方
  ■　自分自身の価値観
  ■　情熱を持って取り組みたいこと、貢献したいこと

振り返り

- 「今後、学校に帰って、明日から、自分に何ができますか？」

↓

※「できるところから、地域と学校で何か一緒に取り組んでみませんか」➡　１人ひとりの小さな行動から取り組んでみましょう！

福寿草とはち
御清聴、ありがとうございました。